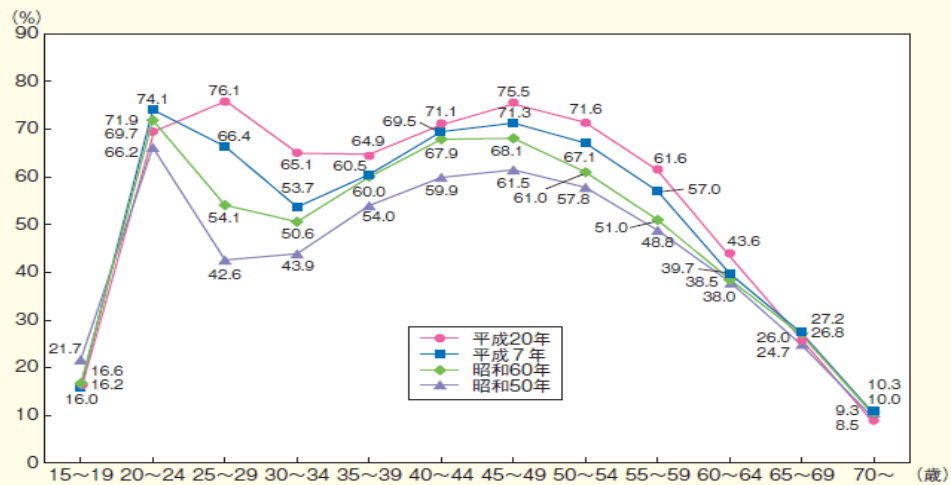


## わたしたちの食を取り巻く状況

## 1 食を取り巻く社会状況の変化

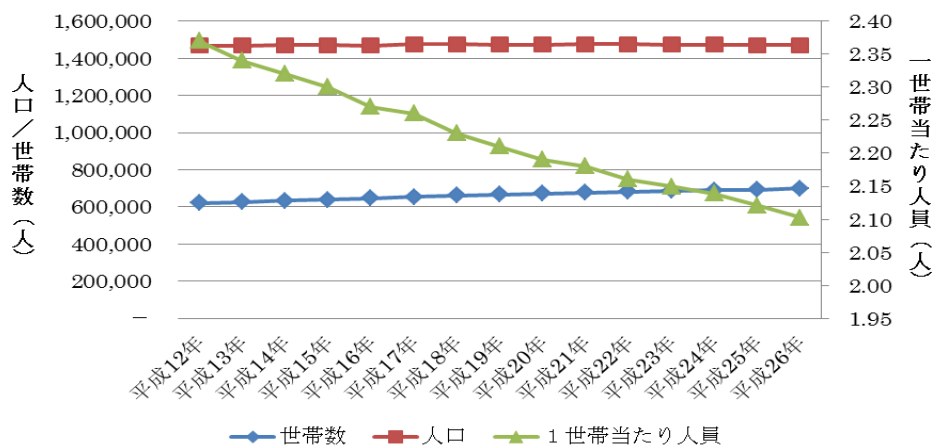
女性の社会進出，単独世帯の増加が進んでいます。

第1-特-20図 女性の年齢階級別労働力率の推移

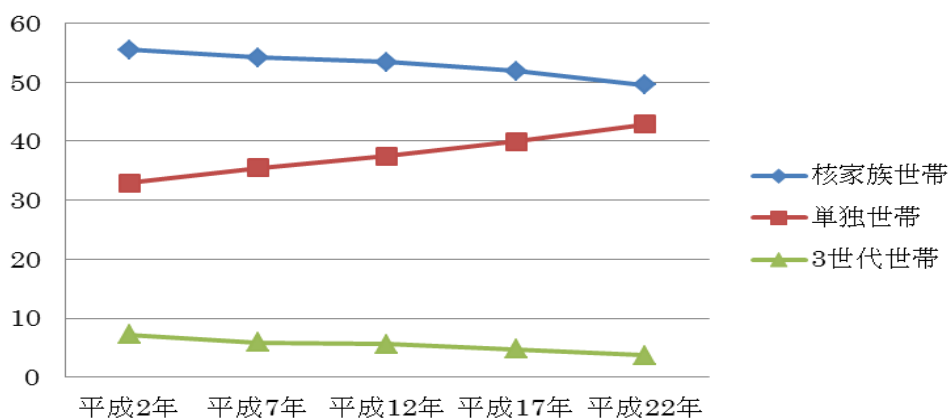


(備考) 1. 総務省「労働力調査」より作成。  
2. 「労働力率」…15歳以上人口に占める労働力人口(就業者+完全失業者)の割合。

人口・世帯数・1世帯あたり平均人員の推移 (京都市)



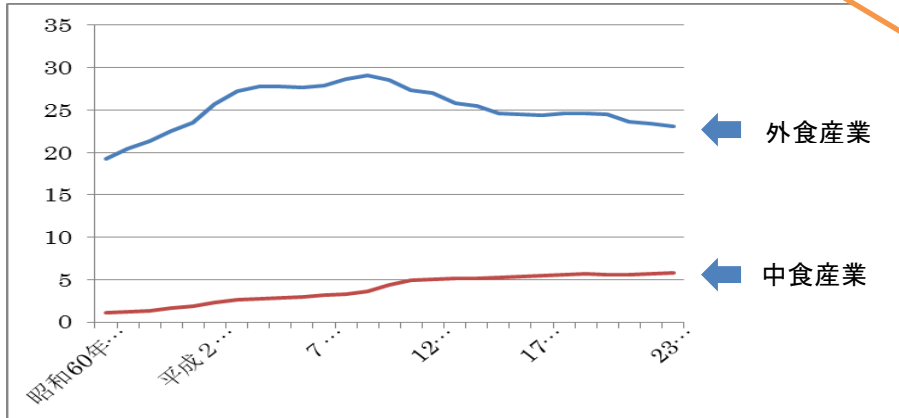
構成別世帯割合の推移 (京都市)



資料：総務省統計局「国勢調査」

忙しい日常の中で、料理を作る時間がない、手軽に購入できる惣菜等の種類が増えている等の理由で中食を利用する機会が増え、家庭で料理を作る機会が減少していることがうかがえます。

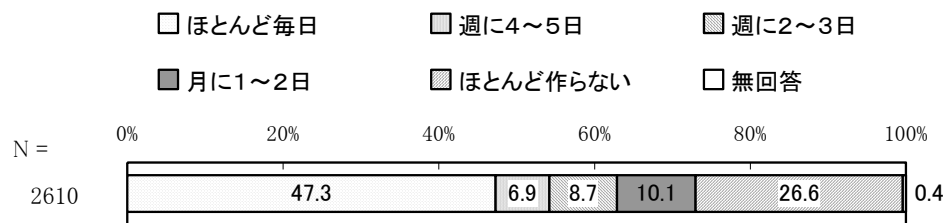
○中食・外食産業の市場規模  
特に中食の市場規模が伸びています。



中食とは？  
惣菜やコンビニ弁当などを購入して持ち帰る。あるいは配達を受ける等によって家庭内で食べる食事の形態

資料：(財)食の安全・安心財団附属機関外食産業総合調査研究センター調べ  
注：1) 中食産業の市場規模は、料理品小売業(弁当給食を除く)の値。  
2) 外食産業の市場規模には中食産業の市場規模は含まない。

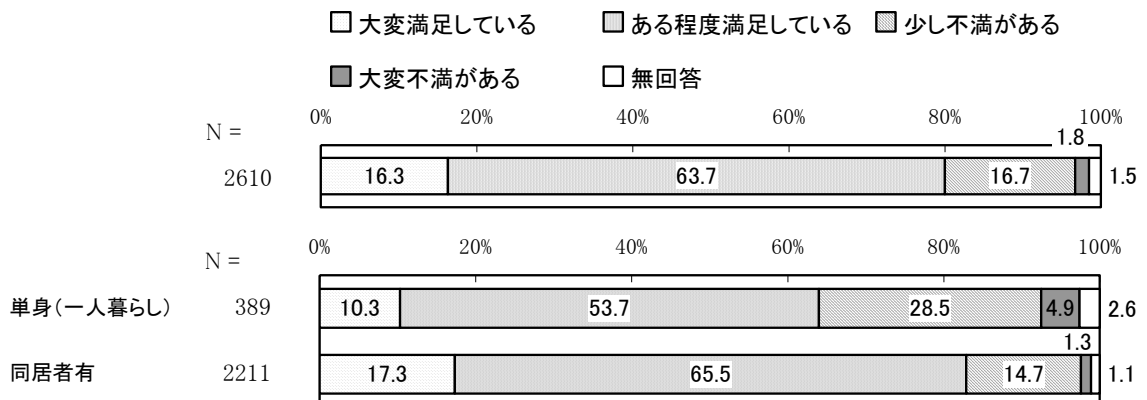
○1日1回以上料理を作る日数(15歳以上の市民)



資料：平成27年度食育に関する意識調査(京都市)

○食生活の満足度(15歳以上の市民)

「満足している」は80%、「満足していない」は18.5%で、同居者有りの人ほど「満足している」が高くなっています。

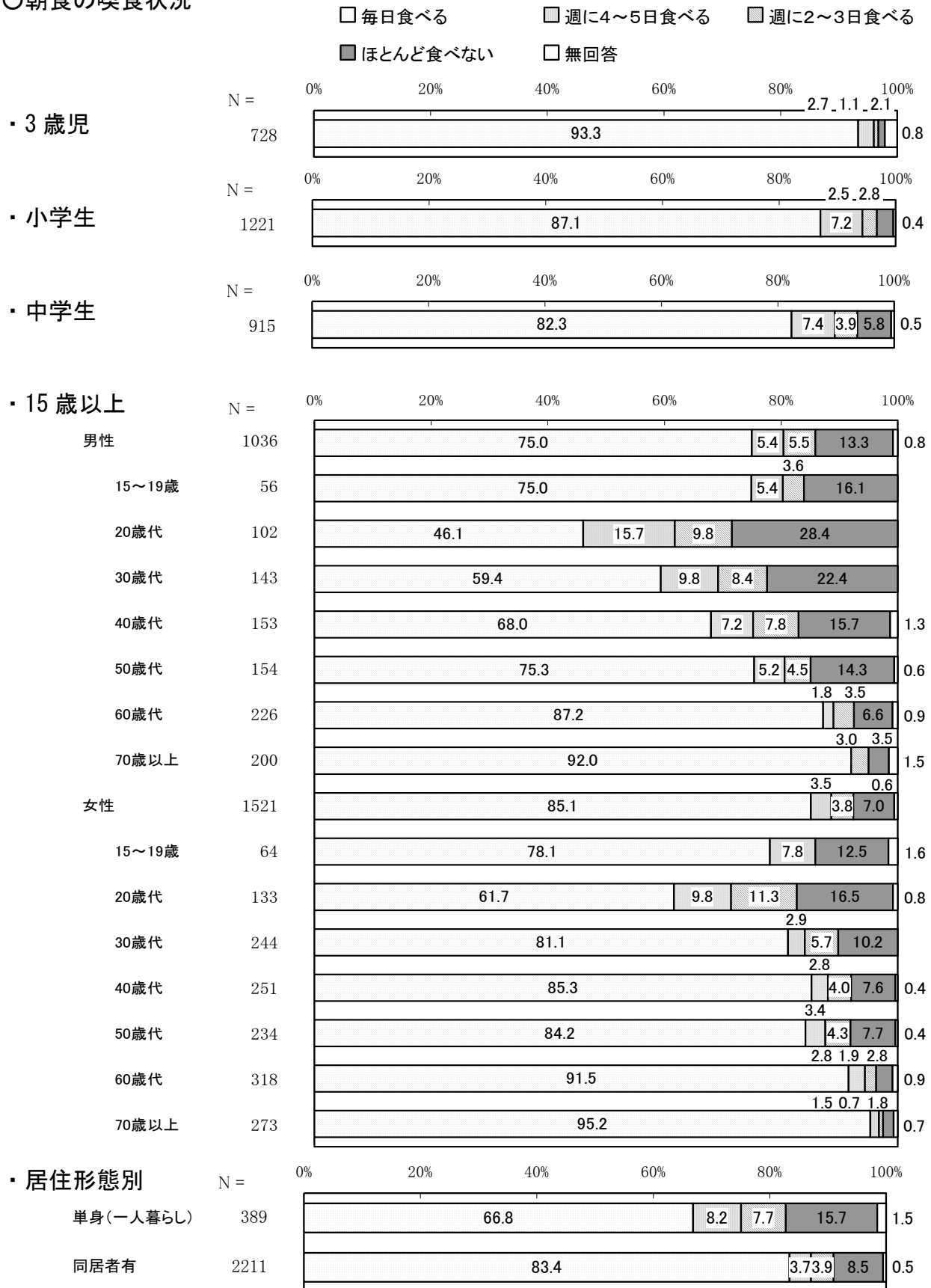


資料：平成27年度食育に関する意識調査(京都市)

## 2 健康に配慮した食生活の実践

「朝食を食べる」「適正体重の維持や生活習慣病の予防、改善のために、「適切な食事」や「運動」をする」等健康増進に向けた具体的な行動が、実践されにくい状況があります。

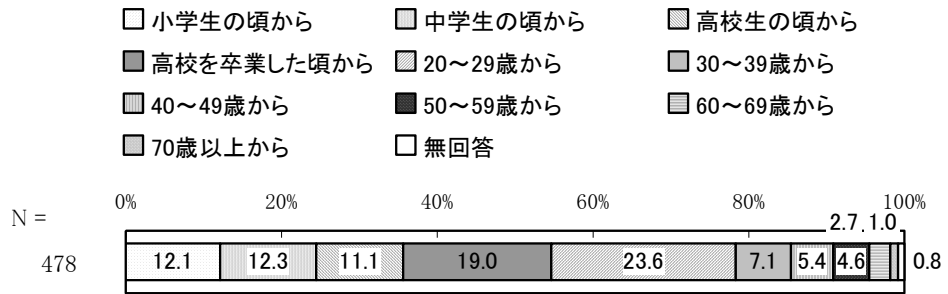
### ○朝食の喫食状況



資料：平成 27 年度食育に関する意識調査（京都市）

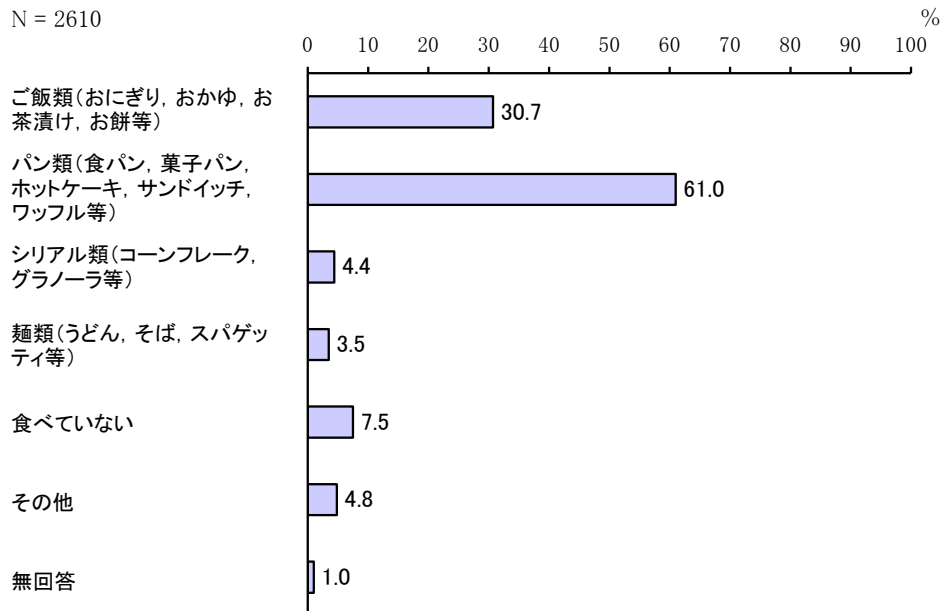
### ○朝食を抜くようになった時期（15歳以上の市民）

「20～29歳から」の割合が23.6%と最も高く、次いで「高校を卒業した頃から」の割合が19.0%、「中学生の頃から」の割合が12.3%となっています。



資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

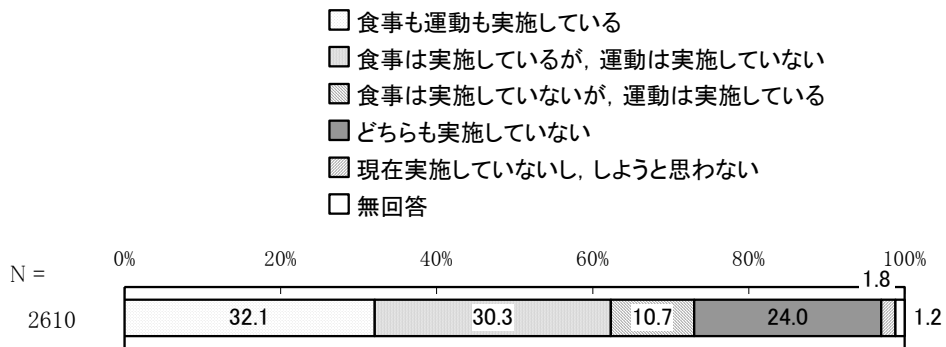
### ○朝食の主食の種類（15歳以上の市民）



資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

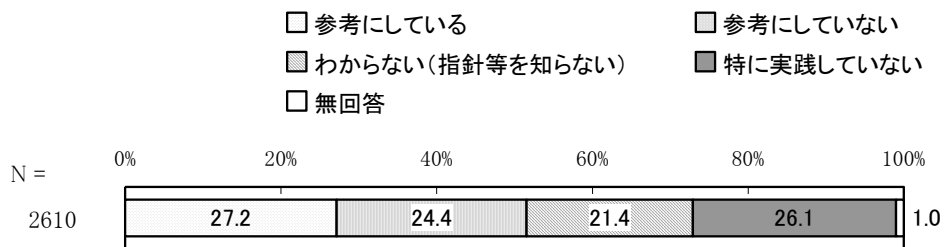
○適正体重の維持や生活習慣病（糖尿病，高血圧，脂質異常症，肥満等）の予防，改善のために，「適切な食事」や「運動」を継続的に実施している状況（15歳以上の市民）

「食事も運動も実施している」の割合が32.1%と最も高く，次いで「食事は実施しているが，運動は実施していない」の割合が30.3%，「どちらも実施していない」の割合が24.0%となっています。



資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

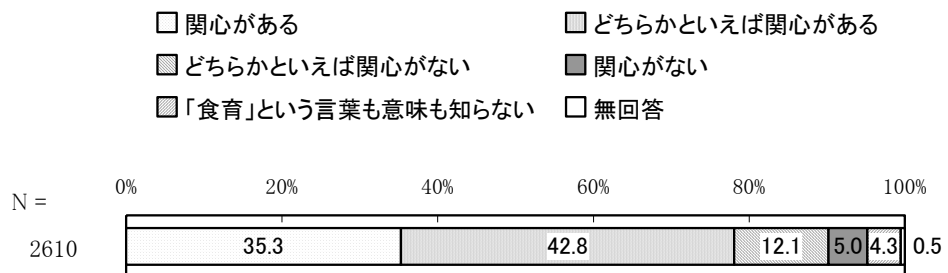
○健全な食生活を実践するため，食事バランスガイド等の指針を参考にしている状況（15歳以上の市民）



資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

○食育への関心（15歳以上の市民）

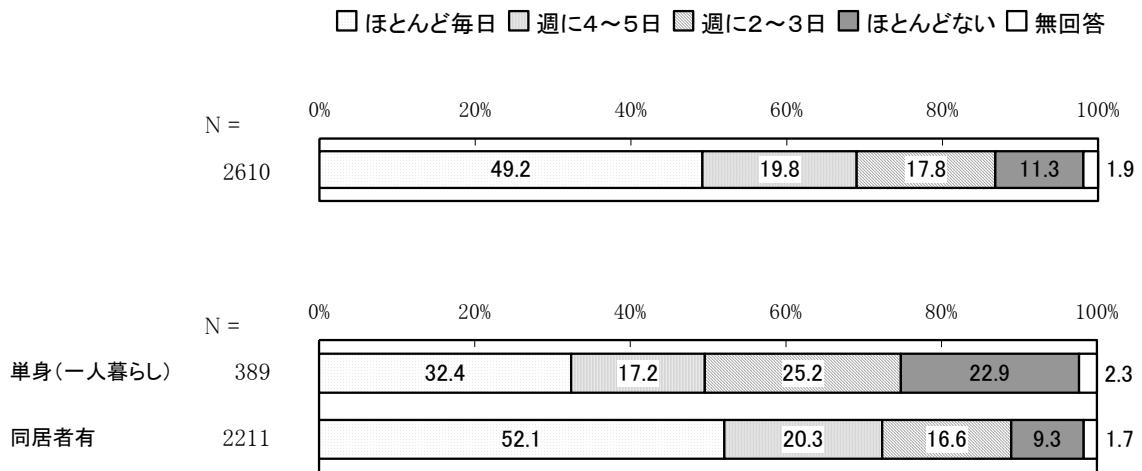
「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」をあわせた「関心がある」の割合が78.1%，「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」をあわせた「関心がない」の割合が17.1%，「食育」という言葉も意味も知らない」の割合が4.3%となっています。



資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

○主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上とる日数の状況(15歳以上の市民)

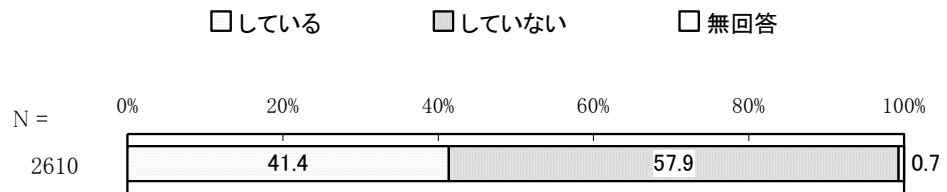
「ほとんど毎日」の割合が49.2%と最も高く、次いで「週に4～5日」の割合が19.8%、「週に2～3日」の割合が17.8%となっています。



資料：平成27年度食育に関する意識調査(京都市)

○災害等に備える水や食品の備蓄状況(15歳以上の市民)

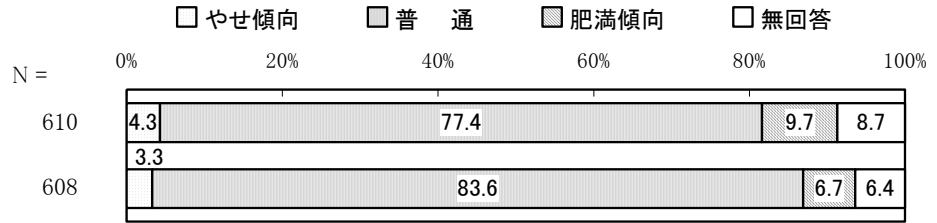
「している」の割合が41.4%、「していない」の割合が57.9%となっています。



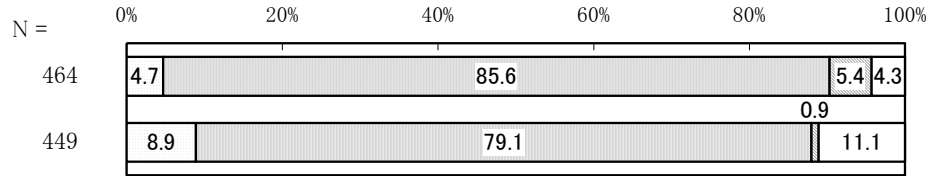
資料：平成27年度食育に関する意識調査(京都市)

### 3 京都市民の体格

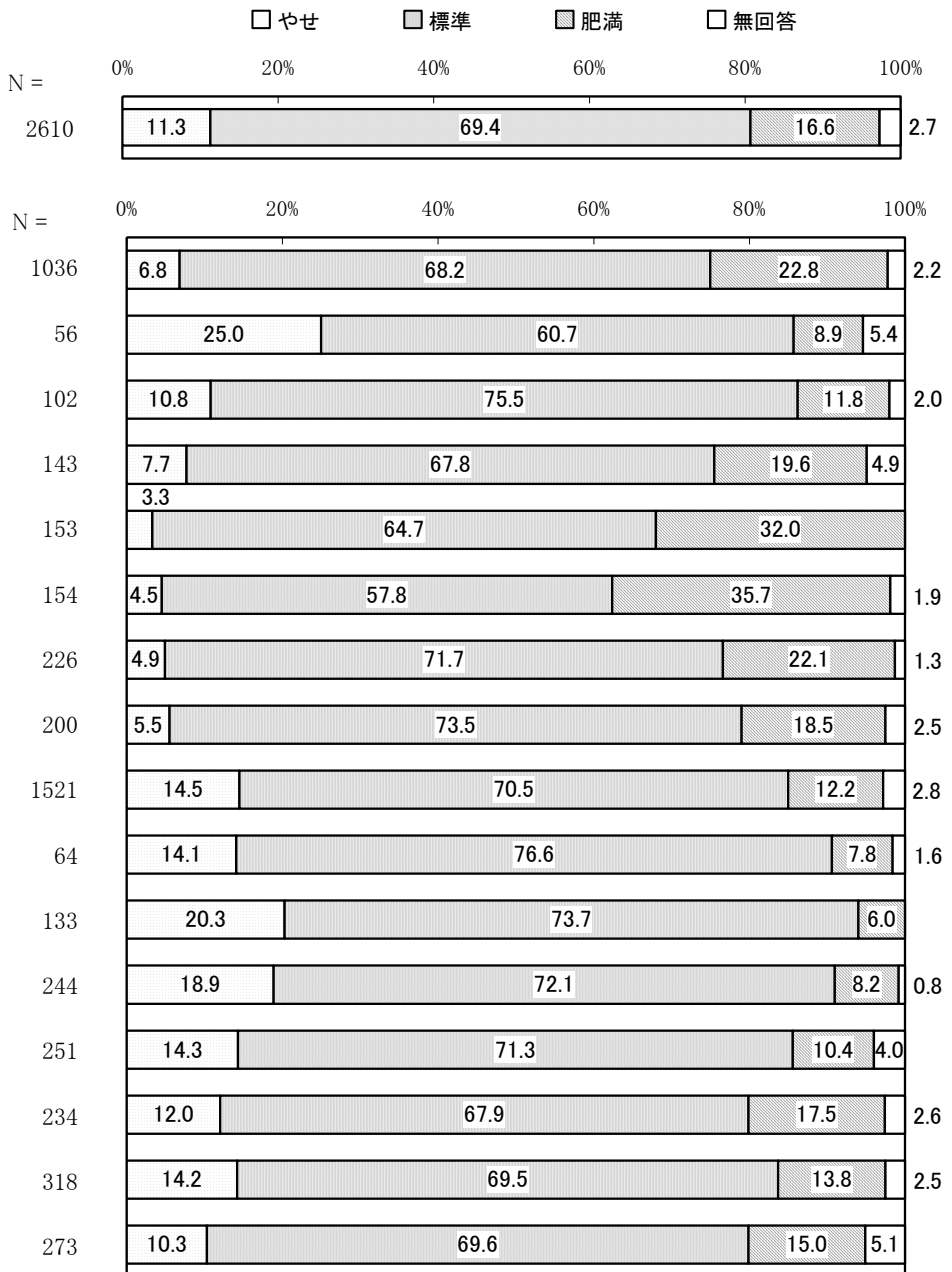
#### ・小学生の肥満度



#### ・中学生の肥満度



#### ・15歳以上のBMI

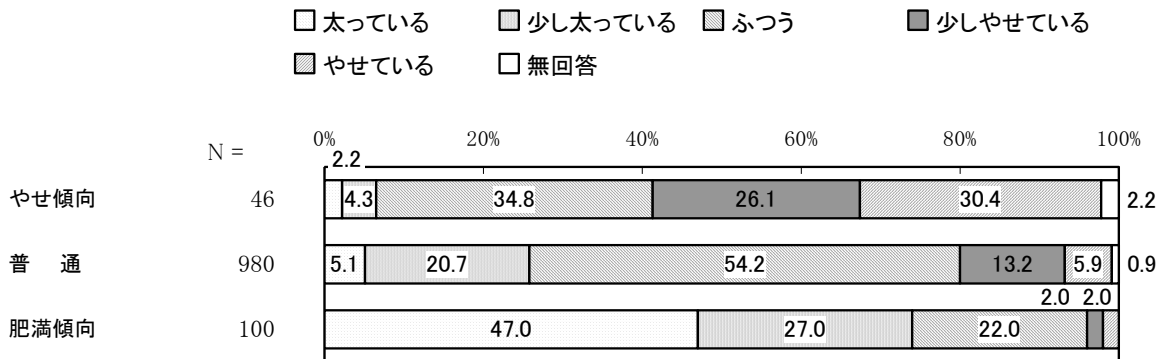


資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

## ○やせ・肥満の状況と自分の体格への認識

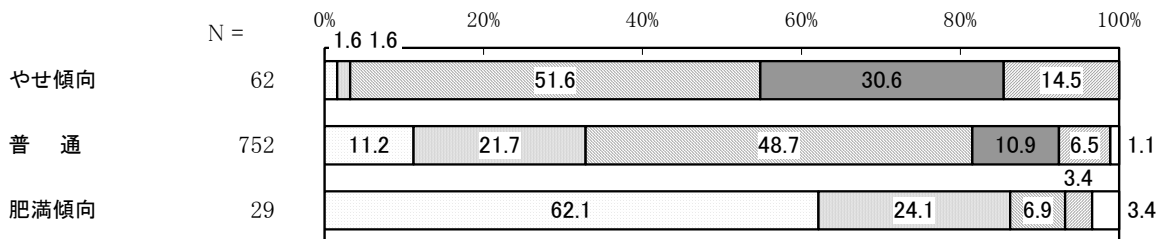
### ・小学生

肥満度別でみると、やせ傾向の児童が「ふつう」と思っている割合が34.8%、肥満傾向の児童が“太っている”と思っている割合が74.0%となっています。



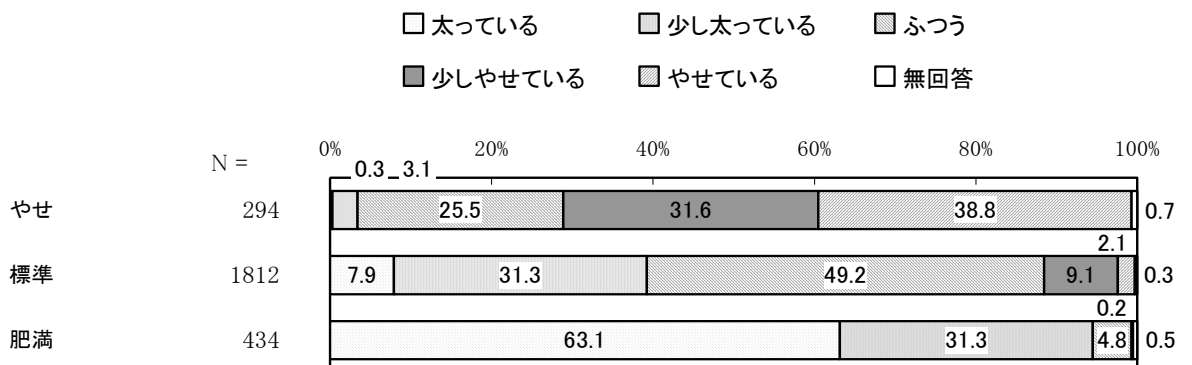
### ・中学生

肥満度別でみると、やせ傾向の生徒が「ふつう」と思っている割合が51.6%、肥満傾向の生徒が“太っている”と思っている割合が86.2%となっています。



### ・15歳以上

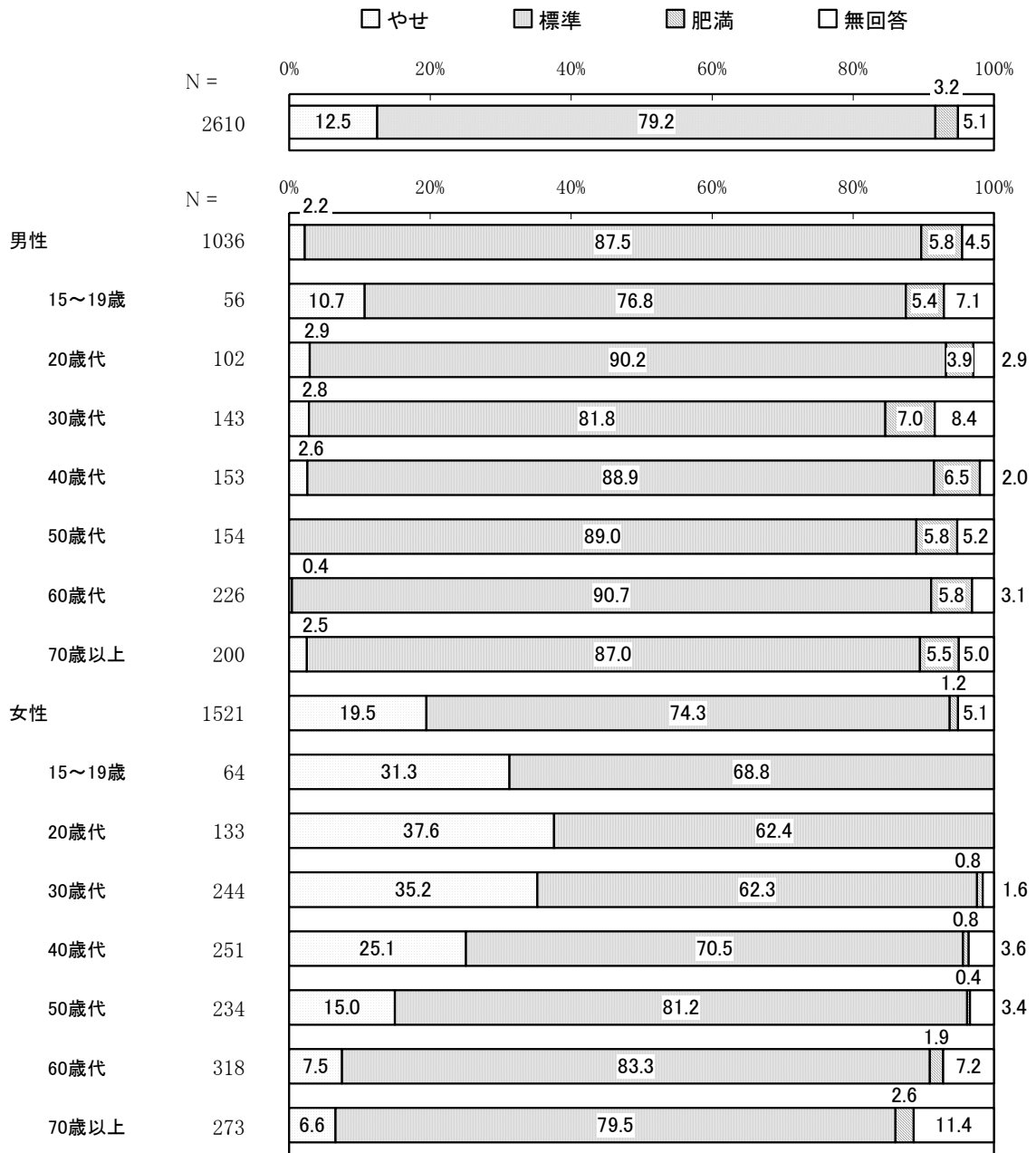
肥満度別でみると、やせの人が“ふつう”と思っている割合が25.5%となっています。また、肥満の人が“太っている”と思っている割合が94.4%と高くなっています。





## ○ 理想の体重

性年代別で見ると、男性は、15～19歳で「やせ」を理想とする人の割合が10.7%となっています。また、女性は20歳代、30歳代で、「やせ」を理想とする人の割合が高くなっています。



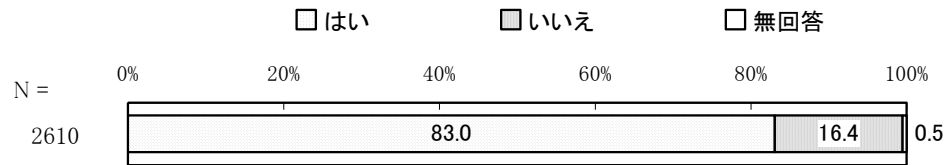
資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

## 4 食とコミュニケーション

毎日家族と繰り返される家庭の食卓は「食育」の重要な場であるといわれています。単独世帯の増加や、就労状況やライフスタイルの多様化により家族そろって食事をする機会を作りにくい状況になっています。

### ○共食の状況（15歳以上の市民）

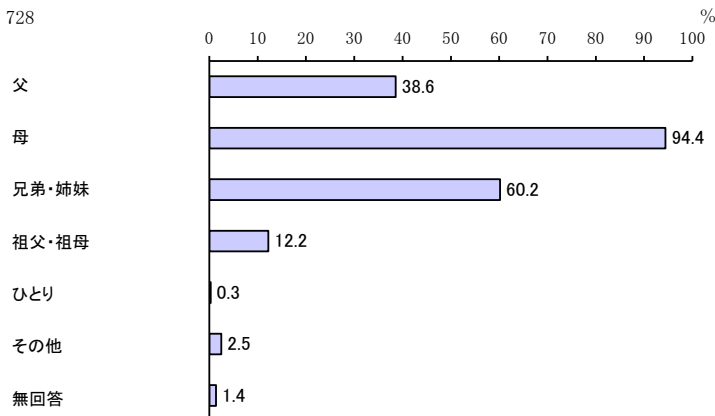
「はい」の割合が83.0%、「いいえ」の割合が16.4%となっています。



### ○夕食を誰と食べるか

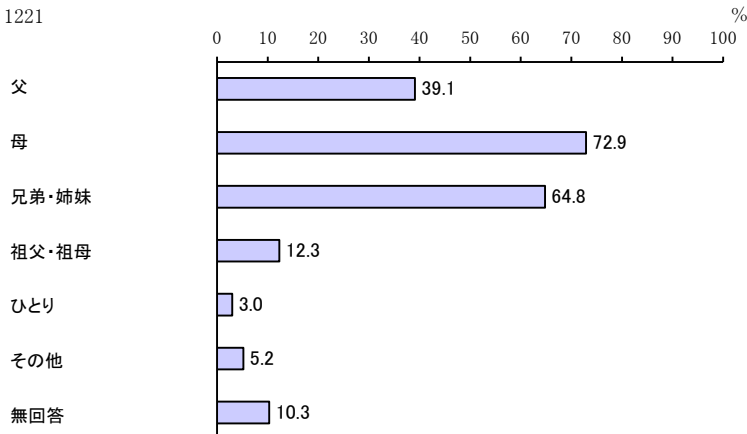
#### ・ 3歳児

N = 728



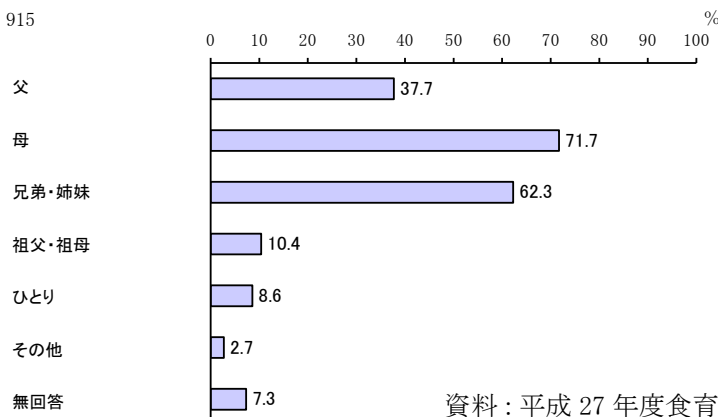
#### ・ 小学生

N = 1221



#### ・ 中学生

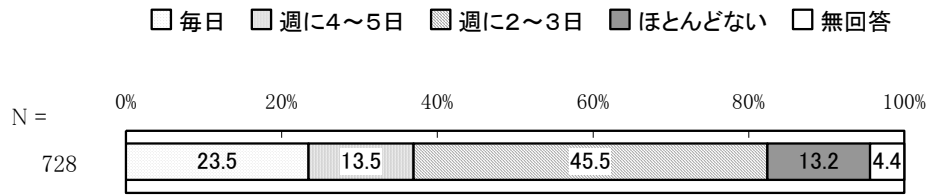
N = 915



資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

## ○家族そろって食べる夕食の頻度（3歳児）

「週に2～3日」の割合が45.5%と最も高く、次いで「毎日」の割合が23.5%、「週に4～5日」の割合が13.5%となっています。

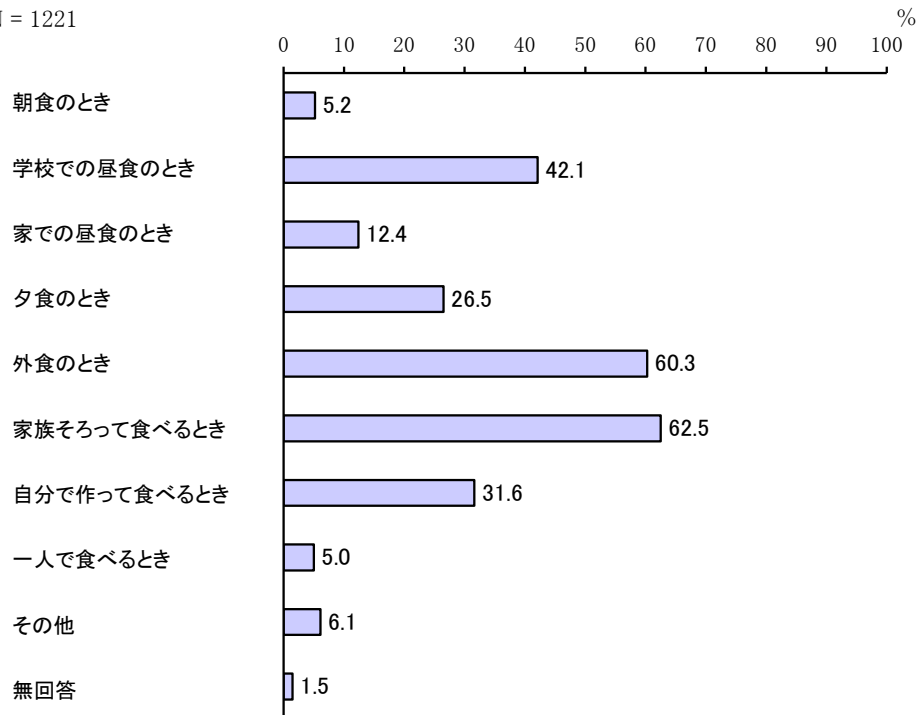


資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

## ○食事が楽しいと感じるとき

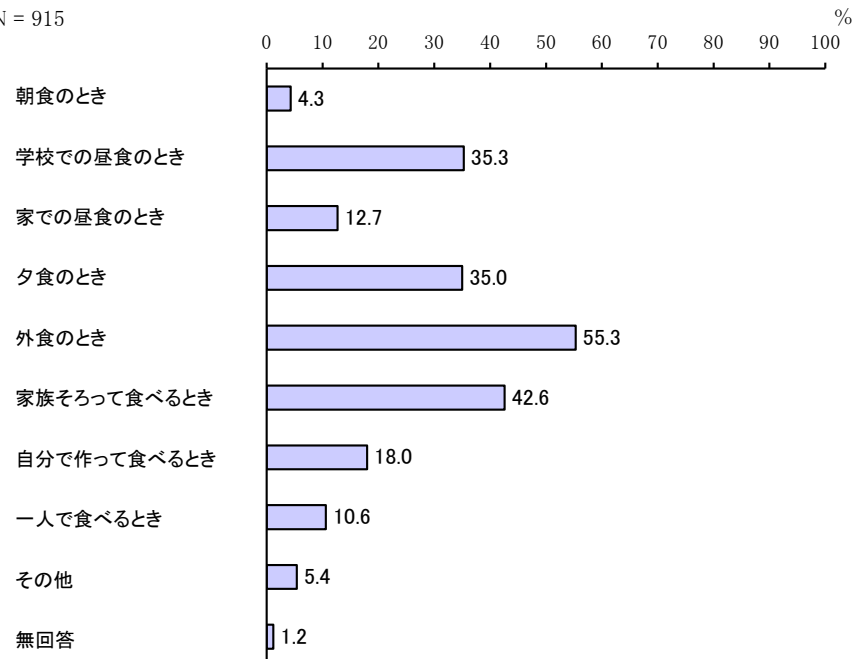
### ・小学生

N = 1221



### ・中学生

N = 915



資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

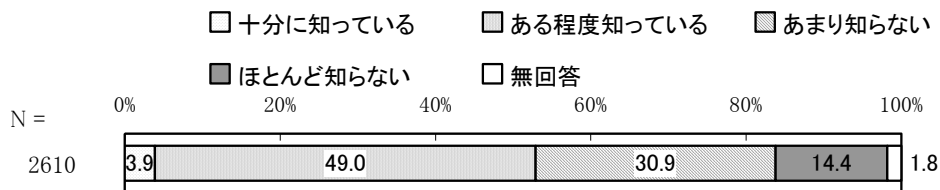
## 5 京の食文化の伝承

京都市では、平成25年10月に京都に伝わる様々な無形文化遺産を大切に守り、未来に引き継いでいくため、「市民が残したい“京都をつなぐ無形文化遺産”制度」を創設し、その第1号として、「京の食文化—大切にしたい心、受け継ぎたい知恵と味」を選定しました。

平安京以来、海から離れた盆地という環境の中で育まれた京都ならではの食文化を次世代へ伝え、つないでいくことが求められています。

### ○食文化（行事食やおきまり料理）の認知度

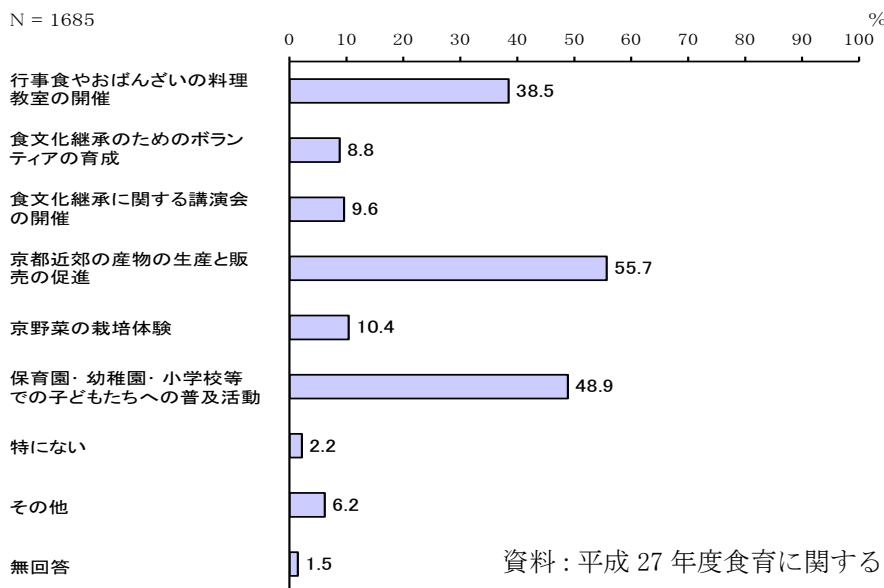
「十分に知っている」と「ある程度知っている」をあわせた“知っている”の割合が52.9%、「あまり知らない」と「ほとんど知らない」をあわせた“知らない”の割合が45.3%となっています。



資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

### ○「京の食文化」を継承するために有効なこと

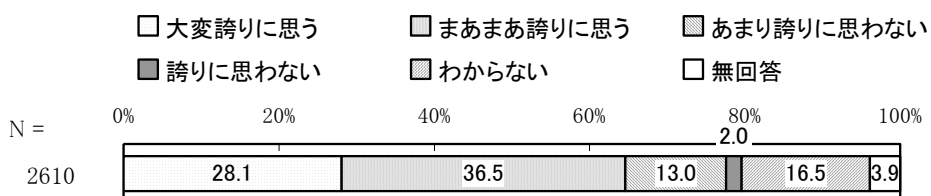
「京都近郊の産物の生産と販売の促進」の割合が55.7%と最も高く、次いで「保育園・幼稚園・小学校等での子どもたちへの普及活動」の割合が48.9%、「行事食やおぼんざいの料理教室の開催」の割合が38.5%となっています。



資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

### ○「京の食文化」を誇りに思う状況

「大変誇りに思う」と「まあまあ誇りに思う」をあわせた“誇りに思う”の割合が64.6%、「あまり誇りに思わない」と「誇りに思わない」をあわせた“誇りに思わない”の割合が15.0%、「わからない」の割合が16.5%となっています。



資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

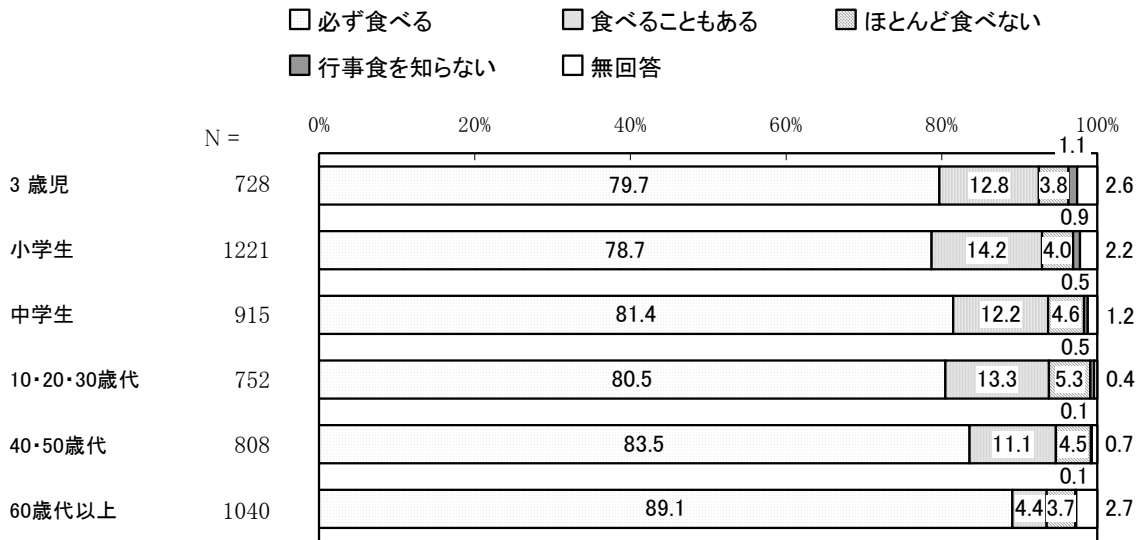
○食べたことがある「おばんざい」

区分	有効回答数 (件)	卵の花炒り煮 (おからの炒り煮)	あらめの炊いたん	なすとしんの炊いたん	菜っ葉とお揚げの炊いたん	若竹汁	ずいきの炊いたん	夫婦炊き	生ぶしとふきの炊いたん	無回答
3歳児	728	45.9	19.5	10.2	66.8	41.3	7.3	7.6	4.7	20.9
小学生	1221	39.6	34.2	37.1	69.0	82.1	39.1	35.2	78.5	4.7
中学生	915	31.1	23.5	35.5	61.0	63.4	23.4	26.4	71.8	10.9

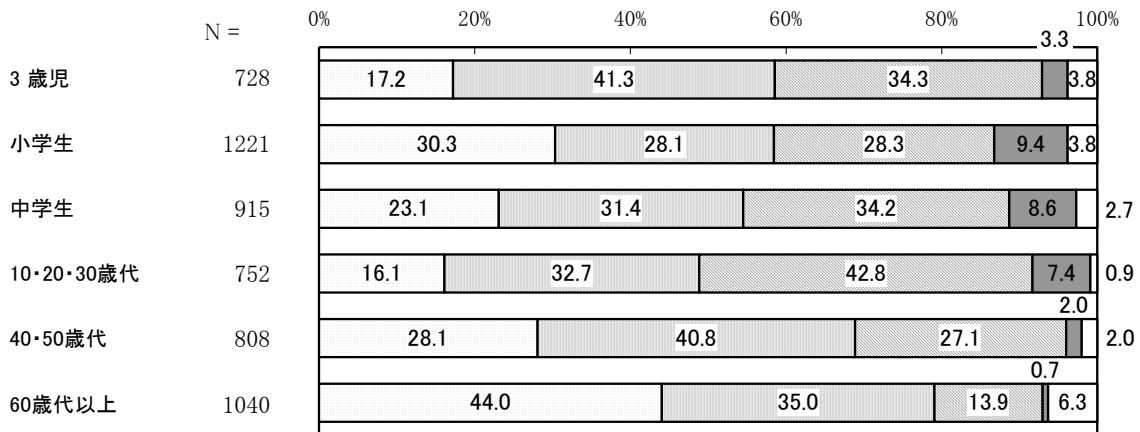
資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

○行事食の喫食状況

・お正月



・お彼岸（春のぼた餅・秋のおはぎ）



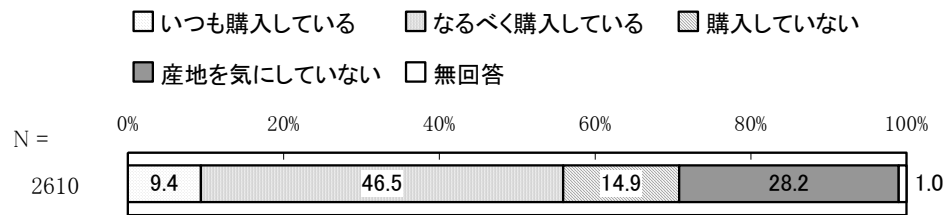
資料：平成27年度食育に関する意識調査（京都市）

## 6 環境に配慮した食生活

京都市では、「京都議定書」誕生の地として、持続可能な低炭素社会の実現に向け、「京都市地球温暖化対策条例」及び、同条例に基づき策定した「京都市地球温暖化対策計画＜2011～2020＞」を推進しています。農産物の地産地消と「京の時待ち食」の普及・推進による環境に配慮した食生活の普及を進めるためにも、環境への意識を高めていくことが求められます。

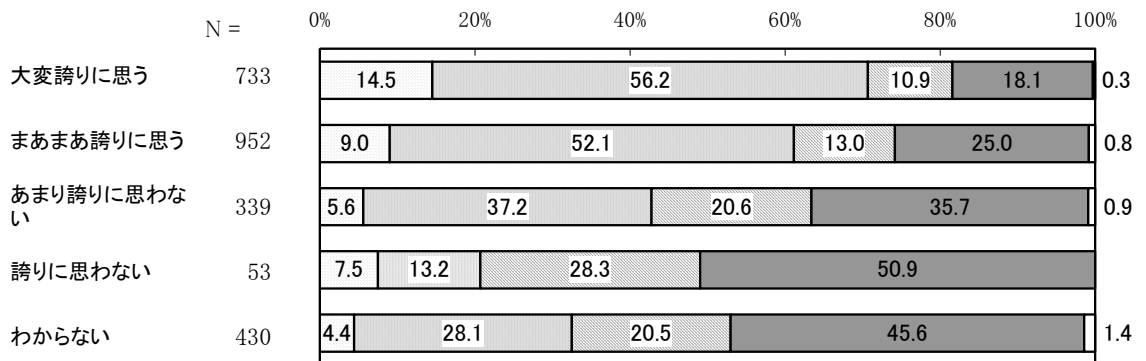
### ○京都又は近郊で採れた農作物を日ごろから購入している状況（地産地消の状況）

「なるべく購入している」の割合が 46.5%と最も高く、次いで「産地を気にしていない」の割合が 28.2%、「購入していない」の割合が 14.9%となっています。



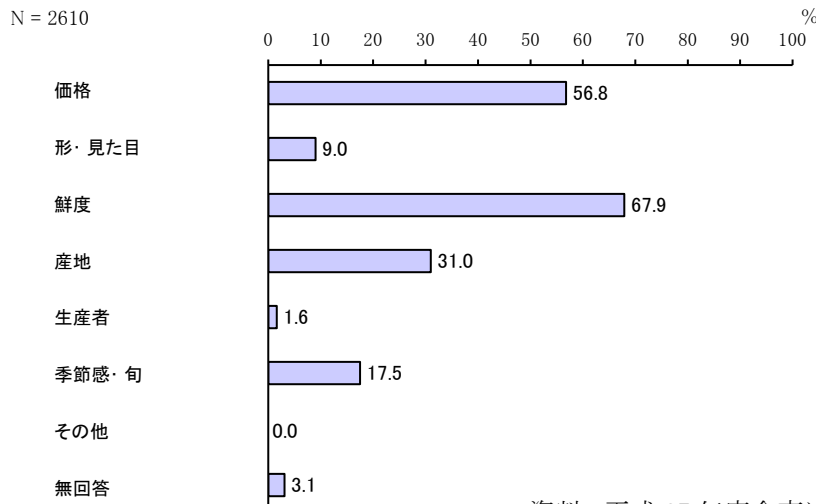
### ・「京の食文化」への誇りの度合別

「京の食文化」への誇りの度合別でみると、“大変誇りに思う”で「いつも購入している」「なるべく購入している」の割合が高くなっています。また、“誇りに思わない”で「産地を気にしていない」の割合が 50.9%と高くなっています。



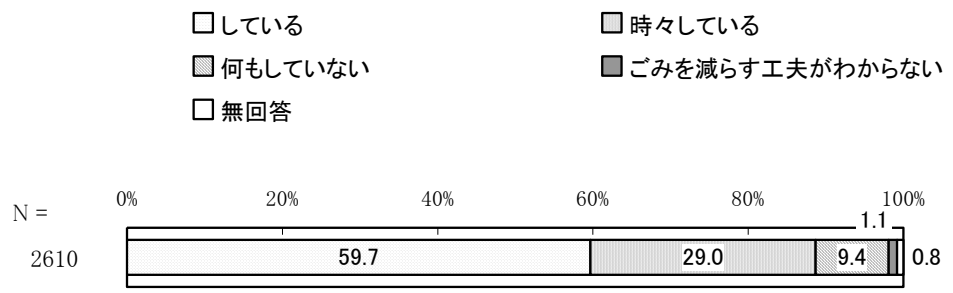
資料：平成 27 年度食育に関する意識調査（京都市）

### ○農作物を購入する際に重視するもの



資料：平成 27 年度食育に関する意識調査（京都市）

# ○食べ残しやごみを減らす工夫



資料：平成 27 年度食育に関する意識調査（京都市）